

# 妙たえの光ひかり

復刊臨時増刊号  
2000年6月10日(季刊)  
角田山妙光寺 発行  
新潟県西蒲原郡巻町  
角田浜 〒953-0011  
TEL 0256-77-2025

## 仏像奉納のお願い

新本堂に新しい仏像をお迎えする計画を前にお知らせいたしました。『一尊四師(いっ  
そんしし)』と呼ぶ形式で、中央に釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ・お釈迦様)、その左側に  
浄行菩薩(じょうぎょうぼさつ)と安立行菩薩(あんりゆうぎょうぼさつ)、右側に上行  
菩薩(じょうぎょうぼさつ)と無辺行菩薩(むへんぎょうぼさつ)の四菩薩(しぼさつ)  
が並びます。お釈迦様像は台座を含めて二メートル余り、菩薩像は一・五メートルです。  
いずれも国内産の檜材で作られます。

その制作には現在滋賀県にお住まいの京仏師石川真水さん五十歳が、取り組んでおられ  
ます。住職が仏具店などの業者を通さず、直接多くの仏師にお会いしたなかで、天台宗の  
さるご住職の紹介もあり一番気持ちに通じた方でした。そのうえで平成十一年五月、檀家  
総代も同席して話し合い、正式にお願いしたものです。石川さんはこれまでにたくさん

### 目次

仏像奉納のお願い	一頁
夏の行事変更ご案内	四頁
本堂、祖師堂工事の進捗	五頁
住職の著書が出版されました	五頁

仏像の制作と修復にあたられて、日蓮宗関係では小湊誕生寺のお釈迦様像の修復があります。

当初お釈迦様像は日本の仏師に制作をお願いするが、四菩薩像は中国で製作して安く予算内に納めようと予定していました。しかしどうしても材料、技術ともに劣ることが判明し、石川仏師の強い勧めもあって、中国での制作を取り止めました。今後妙光寺のご本尊として檀信徒の方々にお参りいただき、永久にお祀りしていくにふさわしい仏像にするべきだと判断したからです。

そこで改めて檀家役員協議のうえ、今回は四菩薩像を日本で制作する予算はないが、この先何年かかっても費用を工面して、一体づつお釈迦様と同じ仏師に制作していただく。その費用は広く檀信徒に協力を仰ぐと決定しました。ですから平成十二年四月の新本堂落慶法要には、お釈迦様像のみとなります。

お釈迦様は全体の高さが約7尺



すでに平成十一年夏から、大広間にお釈迦様と四菩薩の等身大の完成想像図を掲げてこの趣旨をお伝えしています。お釈迦様像には、このたびの工事寄付協力者全員のお名前を書いて体内に納めますが、四菩薩像はそれぞれにご協力いただいた方のお名前を体内に直接書いて、妙光寺のご本尊として永久にお祀りしていきます。

ちなみに菩薩像一体三百五十万円。これは他に知られたくない破格の金額だそうで、石川仏師が住職を友人として考え特別の配慮をしてくださったものです。事実、国産の古木で十分乾燥した最高級檜を原木にしますが、その費用が大半を占めています。

おひとりで一体の奉納でも、幾人か共同で一体でもかまいません。これまでに「ひとりでは無理だが三分の一くらいなら」という方がおいでです。檀家に限定もしません。たとえ年月がかかっても、お気持ちのある方の力を結集して妙光寺のご本尊を奉納していただくというものです。なにとぞご理解とご協力をお願いする次第です。

平成十二年六月吉日

角田山妙光寺 住職 小川英爾

同 総代、世話人一同



# 夏の行事変更ご案内



本堂工事にとまない、夏の行事が変則的になります。詳細は改めて七月初旬発行の本誌でご案内しますが、日程と方針のみを取り急ぎお知らせします。

## 八月一日盆詣会

例年八月一日のお盆墓参りと施餓鬼法要は、いつもどおりです。仮本堂を客殿上段の間に設けましたので施餓鬼法要とお説教が変則的になりますが、受付とお齋を含めて大きな変わりはありません。

## 第十一回フェスティバル安穩

安穩会員、檀家、地域の方々を集めた生前交流と、安穩廟の合同供養祭は、八月十九日(土)に行ないます。ただ例年のゲストによる語りとシンポジウムは、本堂工事中で会場がありません。別会場を借りる案も検討しましたが、移動が大変で無理と判断しました。そこで今回は法要のみとし、当日に併せて行なう本堂の上棟式に参加いただきます。懇親パーティーも妙光寺で、上棟式の祝宴に併せて計画します。

法要はいつも通り、音楽と散華。そしてまた今年も、身延山の日蓮宗布教研修所で研修中の若い僧侶十名が特別参加しますので、大勢の式衆による大法

要となります。

午後から夕方にかけての時間帯となり、送迎バスも予定しています。四基目も完成し、さらに整備も進んだ安穩廟での法要です。おでかけ下さい。

## 八月十九日岩屋七面様祭礼

日には例年通りですが、法要は岩屋のみで行ないます。また例年は午前十時半からでしたが、午後に変更することを検討中です。ただ信徒へ変更のお知らせが徹底できるか問題があり、改めてお知らせします。

## 本堂、祖師堂上棟式

工事の進捗、他の行事との関連、農家の稲刈り等を総合的に考慮し、上棟式を八月十九日(土)午後と決定しました。実に二百三十六年振りの上棟式です。で、賑々しく執り行ないたいと計画中です。

雅楽、太鼓、木遣り、を加えた法要の後、盛大に餅まきをし、和やかに祝宴を催す予定です。当日岩屋七面様祭礼、フェスティバル安穩も行なつて、皆さんで盛り上げていただきます。改めてご案内しますのでご参加ください。

## 住職の著書が出版されました

別紙ご案内のように住職の著書が出版されました。毎日新聞での連載にさらに書き加えたもので、活字も大きく読みやすくなっています。

初版で三千五百部の発行ですから、全国でも大都市の大型書店にしか並ばないかもしれませんが、妙光寺でもお分けできるよう用意はしますが、遠方の方は近所の本屋さん、このチラシで申し込んでいただくのはいかがでしょうか。

毎日新聞、新潟日報では記事で紹介されるようです。お友達等にもお勧めいただけるとありがたいのですが、ご協力お願いします。



## 本堂、祖師堂工事の進捗

四月二十九日の「ご判様」行事を終えて、三十日に仏具店の作業員が大きな仏具類を運びだし、来年の完成まで保管してもらいました。古くなつて傷みのはげしい仏具もありますが、基本的には破損の修理だけで、塗り替え等は計画していません。

一年間の仮本堂を客殿の upper 段の間にして、仮りの台を作った上にこれまでの仏像と、お預かりしている位牌等を並べました。その作業を五月六日、地元角田浜の檀家の若い人たちに一日お手伝いいただきました。

五月八日、がらんとした本堂で役員数人も参列して解体の法要を営み、よく九日から大型機械による解体作業が始まりました。再利用する部材はクレーンで慎重に取り外して保管するなど、天候にも恵まれて順調に進み、五月二十五日にはすっかり終わりをさら地になりました。

六月二日に総代、世話人の全役員と、設計者の茶谷正洋東京工業大学名誉教授、施工の加賀田組役員、現場監督らの出席で地鎮式を行いました。

本堂、祖師堂工事



6月2日の地鎮式



解体中の本堂外観

再利用する内陣の解体



本堂内部の丸柱の検査



解体終了  
5月25日